

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2024年9月6日付

【問1】 飼育(しいく)ケースで見(み)つけた卵(たまご)の数(かず)はいくつ?

37個(こ)

カタツムリの赤ちゃんに餌を与える園児＝潮来市潮来



潮来・あやめこども園

カタツムリ24匹誕生

【問2】 何匹(なんびき)の赤(あか)ちゃんが生(う)まれた? それはいつ?

24匹(ひき)

9月1日に

誕生(たんじょう)

園児笑顔「元気に育って」



1日に誕生したカタツムリの赤ちゃん

カタツムリの赤ちゃんにビツクリー。潮来市潮来のあやめこども園(大崎一寿園長)で、カタツムリの卵がふ化し、24匹の赤ちゃんが誕生した。飼育ケース内に敷いたシートや餌を霧吹きで湿らせて快適な居住空間を確保。こども園関係者や子どもたちが温かい目で成長を見守っている。

6月19日に、3～5歳の園児

【問3】 カタツムリにあげているエサは?

卵(たまご)の殻(から)、細(こま)かくちぎった野菜(やさい)、水(みず)で湿(しめ)らせた紙(かみ)

3人が、計3匹のカタツムリを園の近くで見つけた。子どもたちは、大切に園に持ち帰り、潮崎絵津子保育教諭とともに餌を与えながら、生きものを大事に育てる心を養ってきた。そんな中、飼育ケースの底に卵があるのを潮崎保育教諭が8月15日に発見した。卵を別のケースに移しながら数えたところ37個を確認。9月1日に24匹誕生した。餌は、卵の殻、細かくちぎった野菜、水で湿らせたコピー用紙や段ボールで、現在は体長約2ミ。5歳児クラスの森内碧海(あおい)ちゃんと3歳児クラスの高須陽(ひな)仁(に)ちゃんは「元気に育ってほしい」と笑顔。顕微鏡や虫眼鏡を使って成長を見守る潮崎保育教諭は「園児一人一人を大切に心を込めて育てると同じく、カタツムリにも愛情を注ぎながら育てていきたい」と前を向いた。(小室雅一)

よ 読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね

